

令和6年度子どもが出合う文化についてのアンケート結果概要

1 目的

「伊賀市文化振興プラン前期実行計画」では、基本方針の1つに「子どもたちが文化芸術を体感できる機会を拡充する」ことを掲げており、公益文化団体等と連携して文化に出合う機会の創出に取り組むこととしている。

この取り組みの効果検証や現状把握のため、小中学生（保護者）に文化に関するアンケートを実施する。

2 対象

市立小学校の2・4・6年の児童及び市立中学校の2年の生徒の保護者

2,551人（小学2年：575人、4年：630人、6年：679人、中学2年：667人）

3 実施

(1) 期間 2025（令和7）年1月10日から22日まで

(2) 方法 各学校を通じて配布したチラシに掲載のQRコードを読み取り、スマートフォン等から回答

4 回答状況

回答数 695人 / 対象 2,551人（回答率 27.2%）

5 アンケート結果

問1 アンケートの対象となるお子さんの学年を選んでください。

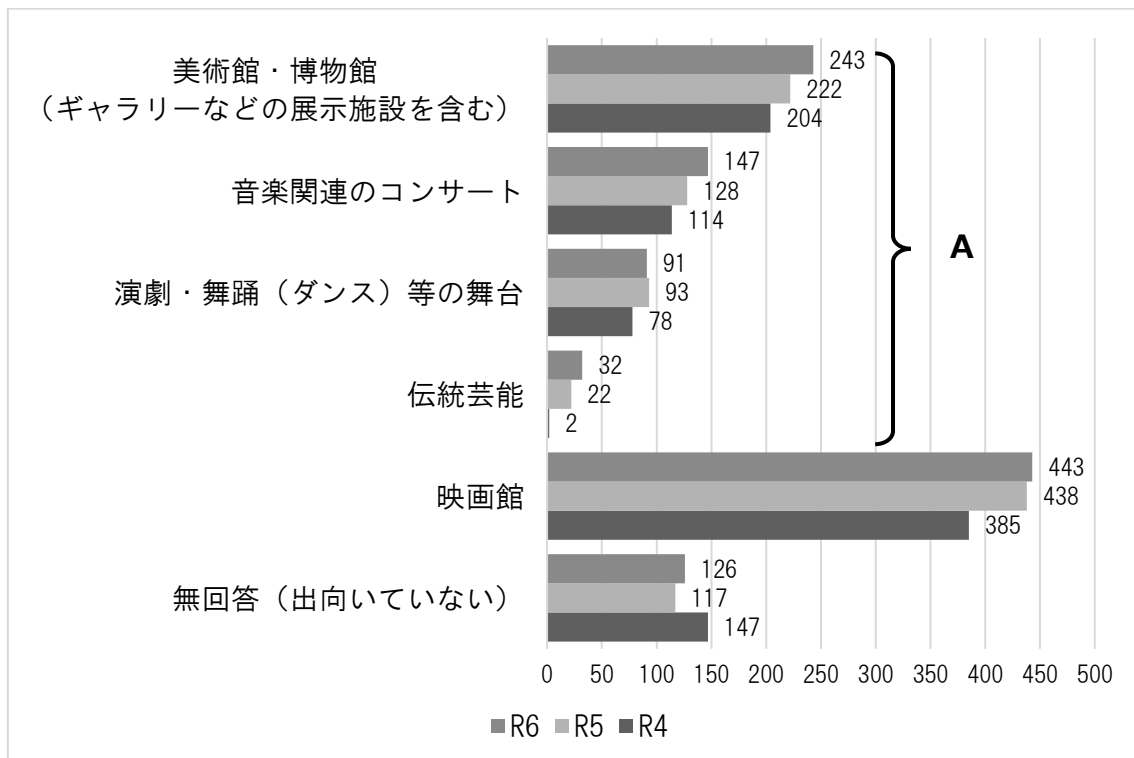
※令和6年4月1日現在の在籍数（学校教育課）

学年	回答人数	児童生徒数※	回答率
小学2年	211人	575人	36.7%
小学4年	194人	630人	30.8%
小学6年	184人	679人	27.1%
中学2年	106人	667人	15.9%
合計	695人	2,551人	27.2%

(参考)

令和5年度	671人	2,652人	25.3%
令和4年度	669人	2,668人	24.9%

問2 お子さんが、この1年間で出向いた市内外の施設・催しがあればすべて選んでください。(複数回答) 単位：人



1年間で会場へ赴くなどして文化芸術を鑑賞した子ども (A) 513人

(参考) 令和5年度 465人

(参考) 令和4年度 423人

回答人数におけるAの割合 73.8%

(参考) 令和5年度 69.3%

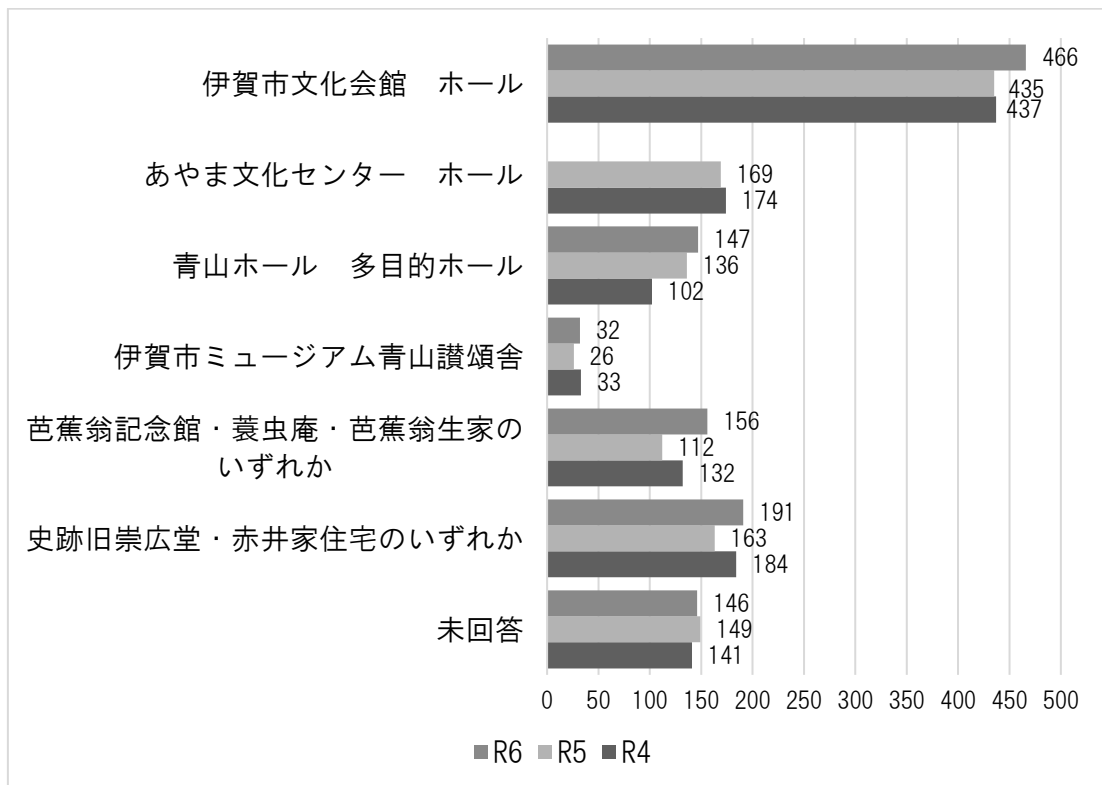
(参考) 令和4年度 63.2%

- ・文化芸術を鑑賞するために施設を訪れた子どもの数は、前回より増加している。
- ・市内に映画館がないが、映画館へ出向いた子どもの数は一番多い。
- ・問5では、参加しやすいイベントを希望する回答がある。

問3 お子さんがこれまでに利用したことのある公共施設をすべて選んでください。

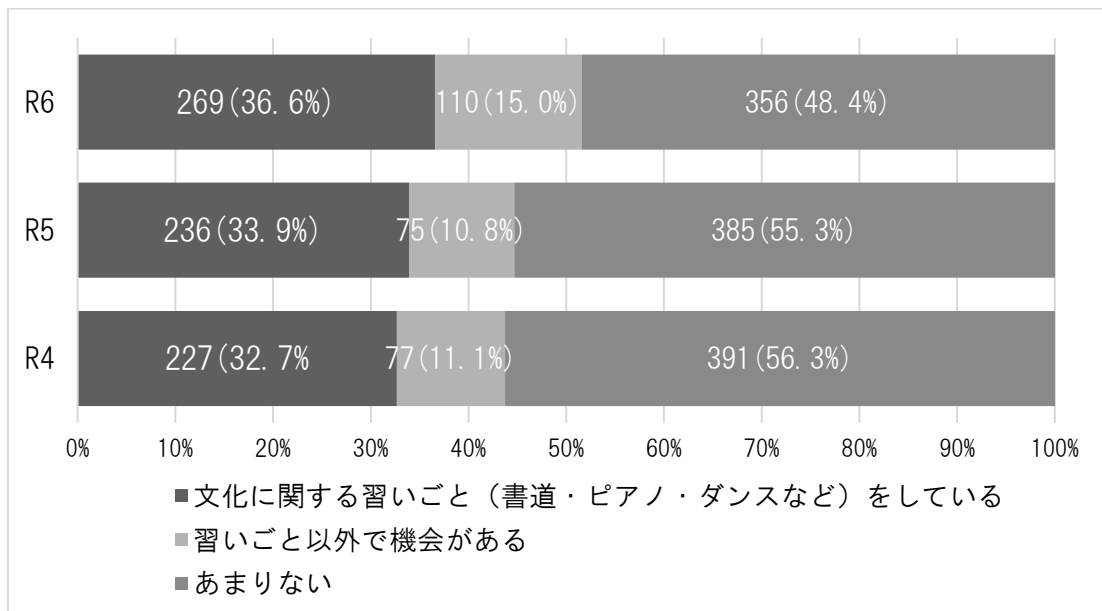
(複数回答)

単位：人



- ・外出する機会が増え、施設を利用したことのある子どもの数が増加した。
- ・芭蕉翁生誕 380 年記念事業もあり、芭蕉翁関連施設を利用した子どもの数が増加した。

問4 お子さんには文化芸術を体験する機会がありますか。



- ・文化芸術を体験する機会があると回答している子どもの割合が増加している。
- ・体験する機会があまりないと回答している子どもの割合は、小学生では約 50%と全体と大きく相違はないが、中学生では約 70%となり、あまりないと回答が増加している。

問5 お子さんが文化芸術にもっと親しむために必要なのはどんなことですか。

(自由記述抜粋)

○子どもが気軽に参加できる機会。

- ・子どもたちだけで参加できる機会。
- ・親子で参加できる機会。
- ・近い場所、交通の便。気軽な料金。敷居が高いと感じないこと。
- ・静かに見たり聞いたりするルールや触ったり壊したりする不安がないこと。
- ・ほかの催しと一緒にするもの、食事付きなど。
- ・郷土文化への醸成のため、地域外でも祭りに参加できる機会。

○子どもが興味をもてること、楽しめる工夫。

- ・参加・体験型。
- ・強制ではないこと。
- ・美術や音楽に限らず自然科学や歴史などの分野のもの。
- ・現在活躍しているアーティストや同世代の子どもたちと触れ合えるイベント。
- ・興味を引く話し方ができる話し手による解説・説明。

○子どもへの情報提供。

- ・学校で配布されるチラシ。(チラシを見て参加している。自分から探すことがあまりない。市内で開催されていて参加しやすい。)
- ・年間の日程や施設情報を案内するパンフレットやHP。

○身近に施設があること。(映画館、美術館、博物館、劇場、図書館など。)

○学校での開催。

- ・平等に触れることができる機会。
- ・学校行事で関心を持った、興味が広がった。
- ・友達と体験を共有できて印象に残る。
- ・自分では行きにくい。選択肢が狭い。敷居が高い。

○保護者の興味、関心、きっかけ、機会、心のゆとり。

○保護者の負担が少ないこと。

- ・経済的・時間的・送迎等の負担がない。
- ・兄弟姉妹を連れていきやすい。

○日常の中で触れられる場面。(モニュメント、ピアノなど。)